

HTML MANIA X

第7回

インターネットエクスプローラ6が未対応の機能

数年前までは、ウィンドウズ版のインターネットエクスプローラ(IE)はHTML 4やCSSの標準仕様を積極的に取り入れ、ネットスケープナビゲーター4に表示能力で大差を付けたものだった。ところが今や、シェアが9割以上あるというのに、IEは機能面で遅れを取っている。今月は、ウィンドウズ版IEがまったくサポートしていないHTMLやCSSの機能を取り上げよう。

文:佐藤和人

HTML MANIA Xで紹介したテクニックは [URL http://internet.impress.co.jp/maniex/](http://internet.impress.co.jp/maniex/)でソースを公開!



新しいブラウザが続々登場!



Mozilla

URL <http://www.mozilla.org/>



ネットスケープ7

URL <http://wp.netscape.com/ja/>



Opera

URL <http://www.opera.com/>



Safari

URL <http://www.apple.co.jp/safari/>

連載第2回で紹介したCSSの固定配置や、第5回で紹介したobject要素など、ウィンドウズ版IEが対応していない機能は多い。現在もっともW3Cの標準仕様を正確にサポートしているのは、Mozilla.orgで開発されているMozillaだ。ネットスケープ7はMozillaのちょっと前のバージョンをベースに作られているので、Mozillaの最新版1.2.1が一番進歩しているブラウザだと言える。

Opera Software社が提供しているOperaもウィンドウズ版IEより標準対応が進んでいる。この1月には表示能力がさらに強化されたOpera 7が登場した(日本語版は3月20日発売予定)。

また、アップル社からはUNIXのブラウザ-Konquererを元に開発された新しいブラウザ-Safariが登場した。まだベータ版だが、Mac OS Xユーザーの間では早くも人気を集めている。

この記事の情報は、2003年2月4日現在のものです。

[link要素でサイトを便利に]

文書と文書間の関係を示すlink要素は、ウェブの初期のころからHTMLにあるものだがこの要素を活用しているブラウザは現在でも少ない。MozillaやOpera 7のツールバーには、link要素を便利に使える機能が用意されている。



表とセルに枠線を付ける



Mozilla 1.2.1のナビゲーションバー



Opera 7ではlink要素で「rel="Next"」を指定すると、「Forward」ボタンが「Next」ボタンに変わる。

tips1-1.html

```
<link rel="Index" href=".." />
<link rel="Top" href=".." />
<link rel="Prev" href=" ../200303/tips3-4.html" />
<link rel="Next" href="tips1-2.html" />
<link rel="Author"
href="mailto:kazuto@mvi.biglobe.ne.jp">
```



代替スタイルシートを使う



Mozilla 1.2.1



Opera 7

tips1-2.html

```
<link rel="stylesheet" type="text/css"
href="mystyle.css">
<link rel="alternate stylesheet" type="text/css"
href="large.css" title="おおきめの字">
<link rel="alternate stylesheet" type="text/css"
href="black.css" title="黒い背景">
```

link要素を使うと、そのページに関連する別のページのURLをブラウザに教えることができる。ソース のようなlink要素を<head>と</head>の間に置いてみよう。Mozilla 1.2.1やOpera 7の「View」メニューでナビゲーションバーを表示させれば、link要素で指定したトップページ、前のページ、次のページなどにクリック一発でジャンプできる。IEにはない便利な機能だ。

link要素のrel属性に指定できるリンク形式については、HTML 4の仕様書とブラウザの対応に違いがあることに注意。Mozillaのツールバーの左にある「Top」や「Up」は仕様書にはない。また、昔から使われてきた「rev="made" href="メールアドレス"」にはOpera 7は対応していない。rel属性を「Author」とすれば、ツールバーでメールソフトを起動できる。

link要素で指定した外部スタイルシートは、rel属性の値を「alternate stylesheet」とすると、「代替スタイルシート」になる。ソース のページでは、mystyle.cssが適用されるが、large.cssとblack.cssという追加のデザインも用意されている。Mozillaのメニュー「View」「Use Style」(日本語版ネットスケープ6.7では「表示」「スタイルを使用」)から代替スタイルシートの名前を選べば、ページのデザインを好きなものに変更できる。Opera 7ではアドレスバーの「Author Style」ボタンから選択する。これもIEにはない機能だ。

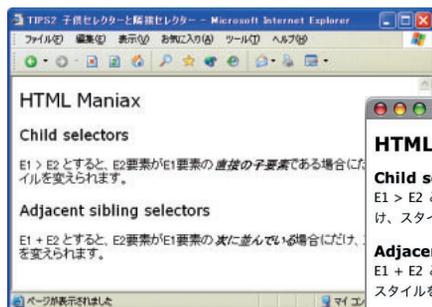
代替スタイルシートには、title属性でスタイルの名前(ソース では「大きめの字」「黒い背景」)を付けること。rel属性の値を「stylesheet」として、title属性をなくせば、常に適用される「固定スタイルシート」になる。

[CSS 2 の高度なセレクター]

CSS 2の仕様ができてから4年近く経つのに、ウィンドウズ版IEでは、CSSの機能の多くがCSS 1のレベルで止まっている。ここでは、CSS 2の仕様のうち、セレクターの書式をテストして、IEがいかに時代遅れかを試してみよう。



子供セレクターと隣接セレクター



IE 6



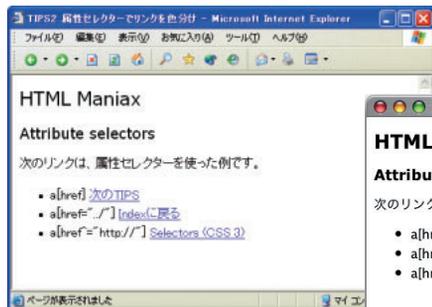
Safari

tips2-1.html

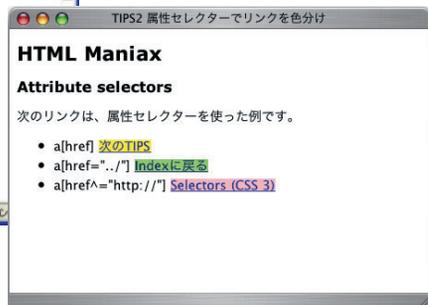
```
body > p { line-height: 1.5; }
h2 + p { margin-top: -0.8em; }
```



属性セレクターでリンクを色分け



IE 6



Safari

tips2-2.html

```
a[href] { background-color: #FF4; }
a[href="../*"] { background-color: #AF6; }
a[href^="http://"] { background-color: #FCC; }
```

子供セレクターはCSS 2で追加されたセレクターの書式だ。2つの要素名を「>」で並べると、2つ目の要素が1つ目の要素の直接の子要素である場合のスタイルを指定できる。ソース では、「body > p」というセレクターで、p要素がbody要素の直下にある場合にだけ行の高さを1.5にしている。

隣接セレクターもCSS 2で追加された書式だ。2つの要素名を「+」で並べると、2つ目の要素が1つ目の要素のすぐ次にある場合のスタイルを指定できる。ソース では、「h2 + p」というセレクターにマイナスのマージンを指定して、見出しと段落の間の余白を小さくしている。

子供セレクターと隣接セレクターに対応しているのは、Mozilla(およびネットスケープ6、7)、マッキントッシュ版IE 5とOpera 7、Safariだ。

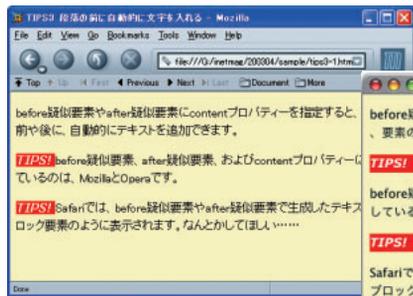
属性セレクターとは、要素名のうしろに「[~]」を付けて、属性の値によってスタイルを切り替えるものだ。ソース の1行目では「a[href]」を使って、href属性のあるa要素の背景色を黄色にしている。2行目では「a[href="../*"]」を使い、href属性が「../*」になっているリンクの背景色を緑にし、3行目では「a[href^="http://"]」を使い、href属性が「http://」で始まるリンクの背景をピンクにしている。

属性セレクターに対応しているのは、Mozilla(ネットスケープ6、7を含む)、Opera 7、Safariだ。ちなみに、ソース の3行目の書式はCSS 3の草案にあるもので、CSS 2の仕様にはない。MozillaとSafariはこの書式にも対応している。Opera 7はCSS 2の属性セレクターに対応しているが、a要素のhref属性ではなぜかうまくいかず、ソース の2行目と3行目は反映されない。

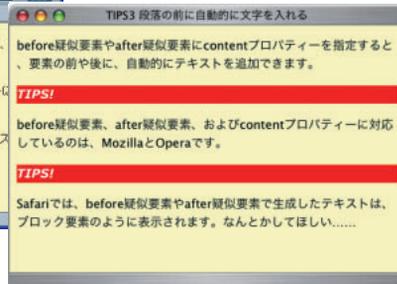
[テキストを自動生成する]

ウィンドウズ版IEの対応が待ち望まれるCSS 2の機能はいろいろあるが、ここで紹介する自動的な内容生成もその1つ。HTMLにテキストを書かなくても、要素の前後にCSSで指定したテキストが追加されるというものだ。

段落の前に自動的に文字を入れる



Mozilla 1.2.1



Safariでは、生成したテキストがブロック要素のように表示されてしまう。

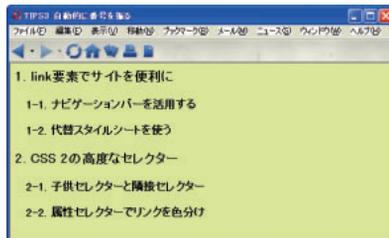
tips3-1.html

```
p.tips:before { content: "TIPS! ";
font: italic bold 1em Verdana;
background-color: #F00; color: white; }
```

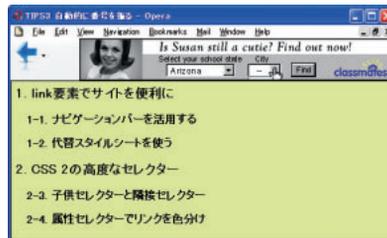
ソースのページを表示すると、2つ目と3つ目の段落の頭に、「TIPS!」という文字が表示される。これはHTMLで書いたものではない。CSSの内容生成機能を使ったものだ。before疑似要素を使って「p.tips:before」というセレクターを作り、contentプロパティの値を「TIPS!」にする。すると、クラス名を「tips」としたp要素の前には自動的に文字列が挿入される。段落のあとにテキストを追加したければ、after疑似要素を使えばいい。

内容生成に対応しているブラウザは、Mozilla(ネットスケープ6、7を含む)とOpera 6、7だけだ。Safariでこの機能を使ったページを開くと、生成されたテキストがブロック要素のように表示されてしまう。IEならテキストが表示されないだけなので害はないが、Safariのこのバグには困ったものだ。

自動的に番号を振る



Opera 6



Opera 7ではカウンターのリセットが効かない。

tips3-2.html

```
h1 { font-size: 1.2em; counter-increment: chapter;
counter-reset: section; }
h2 { font-size: 1em; margin-left: 1em;
counter-increment: section; }
h1:before { content: counter(chapter) ". "; }
h2:before { content: counter(chapter) "-"
counter(section) ". "; }
```

CSS 2には、「カウンター」という機能がある。要素の前に自動的に番号を振ってくれるものだが、対応しているのはOperaだけだ。ソースでは、h1要素にcounter-incrementプロパティを指定して、値を「chapter」としている。h1要素が出現するたびに「chapter」という名前のカウンターの数字が1つずつ増える。カウンターを表示させるには、before疑似要素のcontentプロパティに「counter(カウンター名)」を加えればいい。h2要素には「section」というカウンターを指定している。

また、h1要素にはcounter-resetプロパティを指定して、値を「section」としている。h1要素が出現すると「section」がリセットされるので、「1-2」の次は「2-1」になるわけだ。残念なことに、Opera 7ではカウンターリセット機能が効かないバグが発生してしまった。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp